

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語会話B	
科目基礎情報							
科目番号	01231			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気・電子システム工学科			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	「Impact Conversation 1」(Pearson)、「めざせ100万語！読書記録手帳」(コスモピア)、多読・多聴用教材 (CALL教室および図書館備えつけのもの)						
担当教員	山田 慶太,M. Bodell,R. Fontaine,E. Okrand						
到達目標							
(ア)日常で使う表現を理解し、正しく使える。 (イ)相手が自分や身近なことについて基本的な表現を用いて話す場合、その内容を聴いて理解できる。 (ウ)平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 (優)		標準的な到達レベルの目安 (良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目(ア)		日常で使う基本構文や表現を理解し、正しく使うことができる。		日常で使う基本構文や表現を理解し、教員の助言を参考にしながら使うことができる。		日常で使う基本構文や表現を理解したり、使うことができない。	
評価項目(イ)		相手が自分や身近なことについて基本的な表現を用いて話す場合、その内容を聴いて正確に理解できる。		相手が自分や身近なことについて基本的な表現を用いて話す場合、その内容を聴いて理解できる。		相手が自分や身近なことについて基本的な表現を用いて話す場合、その内容を聴いて理解できない。	
評価項目(ウ)		平易な物語文などを読み、その概要を正確に把握できる。		平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。		平易な物語文などを読み、その概要が把握できない。	
学科の到達目標項目との関係							
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力							
教育方法等							
概要	本講座は、次の2部構成となる：A=外国人講師による少人数グループ（15名程度）での英会話の授業（45分）、B=英文の多読、多聴によりリスニング力、スピーキング力、語彙力を育成する授業（45分）。Aにおいては、外国人講師とアクティブな会話演習を行うとともに、毎回課される課題を通して「英語で考える（Thinking in English）」力を養う。Bにおいては、多読、多聴により英語読解力・リスニング力・語彙力を育成する。						
授業の進め方・方法							
注意点	外国人講師の授業においてはネームカードを忘れないようにすること。多読・多聴活動は、授業外にも図書館を利用して自律的に行うこと。						
選択必修の種別・旧カリ科目名							
選択必修 (英)							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
必履修							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	A：会話演習 1 (Health) B：多読・多聴活動		会話演習1ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。		
		2週	A：会話演習 2 (Relationships) B：多読・多聴活動		会話演習 2 ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。		
		3週	A：会話演習 3 (Relationships) B：多読・多聴活動		会話演習3ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。		
		4週	A：会話演習 4 (Shopping) B：多読・多聴活動		会話演習4ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。		
		5週	A：会話演習 5 (Shopping) B：多読・多聴活動		会話演習5ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。		
		6週	A：会話演習 6 (Travel) B：多読・多聴活動		会話演習6ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。		
		7週	A：会話演習 7 (Travel) B：多読・多聴活動		会話演習7ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。		
		8週	A：会話演習 8 (Lifestyle) B：多読・多聴活動		会話演習8ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。		
	4thQ	9週	A：会話演習 9 (Lifestyle) B：多読・多聴活動		会話演習9ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。		
		10週	A：会話演習 10 (Culture) B：多読・多聴活動		会話演習10ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。		
		11週	A：会話演習 11 (Culture) B：多読・多聴活動		会話演習11ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。		
		12週	A：会話演習 12 (Food) B：多読・多聴活動		会話演習12ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。		
		13週	A：会話演習 13 (Food) B：多読・多聴活動		会話演習13ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。		
		14週	A：会話演習 14 (Events) B：多読・多聴活動		会話演習14ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。		
		15週	A：後学期のまとめ B：後学期のまとめ		後学期の内容が理解できる。		
		16週					

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文社会科学	英語	英語	聞き手に正しく伝わるよう、語・句・文における強勢、文におけるリズム・イントネーション、音のつながり・区切りを意識しながら明瞭に音読あるいは発話できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				日常的な話題や社会的な話題について、はっきりとした発音で、調整された速さで話された内容から、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				日常的な話題や社会的な話題について、基本的な表現を用いて、情報や考え、気持ちなどを話すことができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
分野横断的能力	汎用的技能	コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキル	他者の考えや主張を理解するために、相手を尊重し配慮する態度をとることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
評価割合						
			会話演習	多読	合計	
総合評価割合			50	50	100	
基礎的能力			50	50	100	